

トグルタル酸は減少の傾向がみられている。以上、子宮頸癌根治手術の如き比較的侵襲の大きい術後では、栄養管理にあたっては更に積極的な栄養補給法が検討されるべきものと思われる。

質問

(北大) 松田 正二

1) 被検者に対する術後補液は一定にしてあると思う

が、どのようにされたのか。

2) 何か特別の治療をした場合との比較はありませんか？

回答

(京大) 山田 良

今回検討した症例はいずれも一定条件のもとに経口的にも非経口的にも栄養投与を行った。

第10群 胎児・新生児

81. 分娩時における母体血および臍帯血の酸塩基平衡について

(東大)

堀口 貞夫, 藤井 仁, 坂元 正一

娩出時、第一呼吸開始前に臍帯を2本の鉗子で挟みその間より臍帯動静脈血を採取し、同時に母体上腕動脈より動脈血を採取し、これらのサンプルについて、Artrupの Micro-equipment により pO_2 , pCO_2 , pH, Buffer Base, Base Excess を測定した。

対象は東大産婦人科で分娩した53例である正常分娩例の値は次表のごとくである。

	pO_2	pCO_2	pH
母体	94.6 ± 21.4	27.4 ± 7.6	7.394 ± 0.030
臍帯動脈	16.8 ± 4.2	50.3 ± 8.6	7.277 ± 0.072
臍帯静脈	27.5 ± 7.6	39.7 ± 3.2	7.324 ± 0.059
	Buffer Base	Base Excess	
母体	43.1 ± 4.5	-6.5 ± 2.6	
臍帯動脈	43.9 ± 1.7	-5.7 ± 2.9	
臍帯静脈	43.6 ± 3.0	-5.7 ± 3.0	

以上より分娩時の産婦は一次的呼吸性アルカローシスで代償された代謝性アシドーシスであり、児は、代謝性アシドーシスであり且つ Acidemia であることがわかる。

また少数例ではあるが仮死、切迫仮死、羊水混濁、分娩遷延等については特に仮死、切迫仮死では、代謝性アシドーシスの傾向が増加しており、更に呼吸性アシドーシスが加っていることを示している。

質問

(岡山大) 武田 佳彦

羊水混濁例で pCO_2 値の変動、pH値の変動が他の仮死即ち切迫仮死群との変化とは異なるようだがどの様な考案かお教え願いたい。

この羊水混濁と Chronic は Hyponia との関係と

Blood gas 変化の面からお教え頂きたい。

回答

(東大) 堀口 貞夫

胎糞が均等に混入したものを羊水混濁とした。羊水の混濁は、胎児娩出よりかなり前におこることもあり、娩出時の血液の状態とはあまり平行しない可能性があると思われる。

Placental dysfunction による Hypoxia が常に存在するかどうかは、はつきりした結論を持つて居ない。今後の研究の結果によつて結論を出したいと思つている。

82. 分娩時の酸素投与の母児に与える影響について

(岡山大)

山本 衛, 清水 礼子, 武田 佳彦

分娩時の胎児には、「ヒポキシア」、「アノキシア」と言つた呼吸循環系の障害が容易に惹起されるが、この様な障害を改善するために、分娩時母体に酸素投与を行い、母体動静脈及び臍帯動静脈の血液ガス値を測定し、母児間の相関及び酸塩基平衡について検討した。母体側では、対照群は分娩時の Hyperventilation のためと考えられる炭酸ガス分圧値の低下、及び軽度の呼吸性アルカローシスがみられるが、酸素投与群では酸素分圧値の急上昇、炭酸ガス分圧値の低下、及びアルカローシスが強まり、酸素投与の好影響が著明に現われている。一方胎児では、対照群はヒポキシアが強く、炭酸ガスの蓄積、及びアシドーシスが強いが、酸素投与群では、これらが明らかに改善されている。酸素投与時間の胎児に及ぼす影響については、10分以上、30分以内の投与が酸素分圧値のうえで、最も好影響を示している。次に母体並びに胎児の酸塩基平衡についてみると、母体では、対照群は軽度の呼吸性アルカローシスの傾向にあるが、酸素投与群では、更にこの傾向が強まっている。一方胎児では、対照群は軽度の combined acidosis の傾向にあり、仮死群では更にこれが強まり、代謝性アシドーシスに傾